



Weekly Report

親睦と協調



佐世保北ロータリークラブ 2012～2013年度 RI 会長 / 田中作次 ガバナー / 福元裕二

会長/西川正美 幹事/中野雄一郎 例会場/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店8Fカトレアホール（毎週月曜日）
 創立/1984. 4. 16 認証/1984. 5. 14 事務局/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店内 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201
 E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本日】会員数42名 出席 29名 欠 席 2名 出席規定免除会員（11）出席 10名 ビジター 1名 出席率 95.12%
 【前々回】会員数42名 出席 24名 メークアップ 7名 出席規定免除会員（11）出席 9名 修正出席率 100.00%

《ガバナー補佐 卓話》

「ちょっといい話」

山口二郎 第6グループ ガバナー補佐



（概要）

1. 2年ほど前のある週刊誌のなかに、一寸、気を留めた標題がありました。その標題は、「親の体を洗ったことがあるか」というものでした。その記事の内容は、ある有名な政治

論者の先生でしたので、なお面白く目を通しました。

2. その記事の内容に入る前には、次のような前置きが述べられておりました。

「ちょっといい話に巡り合うことがたまにある。そんな時には、この世の中、まんざら捨てたものじゃない、としばらくは気分がいい。そんな話題が二つある。いずれも青年にまつわる実話だが、ほのぼのとした気持ちにさせられた。」

3. 第一話 「親の体を洗ったことがあるか？」

ある大会社での入社試験にまつわる話題で、試験官である社長の言動と、受験者の青年Aとのやりとり、加えて、その母親の対応について、三者三様の人間模様が非常にデリケートに書かれておりました。

私自身、この話には非常に感銘を受け、このような良い話はただ一人で詰め込むのはもったいない、といろいろな人との会話のなかで話題にしたほどでした。（内容は、別紙のとおり）

第二話 「奉仕精神が希薄な現代、今求められる『アルタ』」

青年Bは、あるとき「布施」の大切さを聞かされます。布施とは、仏教用語で功德を積むことです。お釈迦様は

布施のなかで、三つの布施を説いています。①体を使って行う身施 ②財産を使う財施③仏法の大切さを説く法施。

青年Bは、町工場に勤めていました。自分にもなにかできる布施はないだろうか、と考えていましたが、乏しい収入で財施はまなまりません。そこで思いついたのが身施でした。

Bの住む長屋では、雨が降ると前の路地が水浸しでぬかるみになり、住人たちが困っていました。Bの勤める工場では、石炭を燃やしていたので、その燃えカス（コークス）がたくさんありました。Bはそのコークスを風呂敷につめて、毎日路地にまくようになりました。毎日、風呂敷一杯を、まき続けたのです。三ヶ月もすると、路地は雨が降っても安心して歩けるようになりました。これによって住民たちは非常に助かりました。さらには、このきれいになった路地を見てびっくりした長屋の家主が、自身の家主としての不徳を感じ、あらためてきれいな舗装を完成したのです。Bの身施によって、家主の財施を呼び起こしたのでした。

「アルタ」という言葉は、インドの古い言葉で、日本語で「・・・のために」という意味です。

「それがみんなのためになるかどうか」は、ロータリー四つのテストに合致する言葉そのもののなのです。

（第一話・内容「親の体を洗ったことがあるか」）

ある大会社の入社試験でのことだ。青年Aとしておう。Aは筆記試験をすませ、口頭試問を受けることになった。当日、面接室に入っていくと、正面に四、五人の試験官が構え、まんまかに社長が座っていた。その社長がのっけに、「君は生まれてから今までに、親の体を洗ってあげたことがあるかね」と尋ねたのである。Aはびっくりした。準備していた社会学でも経済学でもない。「いいえ、あんまりならしましたが、体は洗ったことはありません」

「そうか、君は、お父さんを早く亡くして、母ひとり子ひとりだったね」

「はい、そうです」

「藤井良介会員の古希を島原城で祝う会」のお知らせ
当クラブの「島原105キロ・ウォークラリー」経験者で今年再挑戦しようと、藤井会員を誘いましたが今年は歩かないとの返事で、真偽を確認しましたところ、70歳の古希に歩くとのことでしたので、これをバックアップするため、この会を作りました。時々練習したいと考えておりますので、皆様の参加をお誘いいたします。